

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190900060		
法人名	株式会社 ティーアート		
事業所名	グループホーム 季楽里ふあむ		
所在地	佐賀県嬉野町大字下宿甲1879番地21		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年11月6日	外部評価確定日	平成30年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>木の温もりを感じる家庭的な空間で、安心安全を配慮した構造でリビングを中心に囲むような配置となっている。また、スタッフに看護師と歯科衛生士の資格保有者がいることから、利用者様の健康管理や口腔衛生面で医療機関と綿密に連絡をとることができる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>開設してまだ2年目の事業所である。課題も多いが真摯に向き合う姿勢が窺える。例えば、敢えて監査や訪問調査を望み、指摘を改善に繋げようとしている。また、スマホが普及し家族への連絡ツールとしてSNSやメールも考えられる中で、事業所では電話による連絡を旨としている。特に受診後の報告などは異常がなくても肉声で伝えることを大切にしており、代表者の想いが窺える。事業所には看護師の他に歯科衛生士の資格を持つ職員がいることも特長である。気道感染予防には口腔ケアが大切と位置付け、誤嚥性肺炎への危惧から口腔衛生状態を良好に保つよう努めている。これは理念にある「個々に適した専門的で上質な介護の提供」に通じている。職員の互いに注意し合える関係はチームワークの良さとなってケアに活かされている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和を毎朝の朝礼時に行い、理念の意識付けを職員個々が行う事で理念の実践に繋げている	法人理念を基に事業所独自の理念がある。開設時に代表者や職員で創り上げたものである。常に立ち戻る原点として事務室に掲示され、毎朝の唱和で浸透を図っている。誘導の際に声を掛けている様子や、出来ることはやってみよう見守りの姿勢、また、口腔ケアを大切にしていることも理念に通じるものが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の班に入会しており、ゴミ集積所の掃除や草取り等の地域活動に参加している。また、毎朝入所者が近所を散歩する事を日課に取り入れており、地域の方とも挨拶を交わしている。	自治会に加入しており、地域の清掃活動等にも積極的に参加している。隣接して代表者宅があるため地区の細かい情報も入ってくる。ボランティアの訪問もあり、去年は家庭介護者交流事業での見学者も受け入れている。散歩の楽しみになればとわざわざ花を植え歓迎してくれる住民の存在には感謝と同時に励みにもなっている。将来的には敬老会への参加や、事業所の行事に近隣住民を招き、内部の間取り等を知ってもらう機会にもなればと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域の方々に向けた取り組みは出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の頻度で定期に開催している。入所者の状況やヒヤリハット内容、行事内容等の報告を行っている。	会議メンバーには利用者家族の他、共用型デイサービス利用者の家族も出席している。市担当者は代理でも参加者を出し、概ね30分から一時間の会議である。外部の人の目が入る貴重な機会であることを十分承知しており、忌憚のない意見を出してもらえるよう努めている。ヒヤリハット事例では全てを公表し、却って信頼を得ていることが窺える。市担当者には他事業所に参考になる施策等がないかと尋ねることもある。専門性が必要な話題では家族のキャリアが活かされ説明してもらった例もあり、双方向な意見交換の場となっている。当外部評価の結果はこの会議でも報告されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議へ定期的に参加しており、運営推進会議への参加も出席頂いている。	運営推進会議のメンバーであり、市主催の研修等でも顔を合わせている。問い合わせや相談事にはまず電話を掛け、内容によっては直接出向くことになるが、実直に対応してもらえる関係は築けている。また2～3か月に一度、介護相談員の訪問もあり一時間程を利用者と過ごしている。日中の過ごし方で外出の希望を聞き取ってくれたこともありケアに活かしている。今後も利用者との橋渡し役として期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行わない方針だが、離脱行為があり安全面を考慮し、玄関の施錠は行っている。居室にはシルエットセンサーを設置し、事故防止に努めている。体動や起き上がり行為のある方に対しては、ご家族に同意を得た上で四点柵を使用している。使用時には本人様の状態や使用開始時間と解除時間を記録している。	入居契約時に指針の説明を行っており、職員も身体拘束の内容とその弊害を理解している。外部研修を受けた職員は伝達講習の役目も担い、ミーティング(職員会議)等で全員に周知している。現在、止むを得ず玄関は施錠しているが、利用者の様子から一緒に外を歩くこともあり、出来るだけ行動は抑えないよう努めている。仮に不適切なケアがみられた場合は職員の話も聞いた上で指導をしている。また、安全面や家族の承諾を理由に正当化することがないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待防止についての研修会に参加し、その内容をミーティング時に報告する事で、全職員が理解を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用する方は居られない。職員の中には成年後見制度についての講習を受けた者もあり、今後、勉強会等で職員全員の共通理解と利用者個々に対しての必要性を話し合いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては時間を掛けて説明を行っている。また、些細な事でも気になる事があれば相談に応じ、理解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議時に意見を頂いている。また、担当者会議時に家族や本人の意向確認を行い、意向を踏まえた上で生活支援を行っている。	家族により偏りはあるが概ね来所は多い。毎月の利用料書類送付時にはホーム便りや近況も添えているが、直接話ができる機会は大切にしている。世間話等も交えながら何でも話してもらえるよう努めており、外来受診で会う機会にも待ち時間を有効に使っている。出された意見は前向きに活かす体制もある。訪れる家族もまた歳を重ねており、健康面などを気遣い声を掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に職員の意見を出し合い、全員で検討している。	月一回のミーティングは14時から一時間半程、休みの職員は可能であれば出席している。限られた時間をスムーズに進めるための工夫として内容の事前周知や、ミーティングノートを活用した日頃の意見集約が挙げられる。行事やヒヤリハットなど業務に係わる事が主な内容で、意見は活発に出されている。現場の声も大事にしており、まずやってみる事、途中で不具合があれば修正を加えながらという職場気質である。利用者毎の案件は朝ミーティング時のショートカンファレンスで行っている。代表者には、発言しやすく働きやすい職場であることが念頭にあり、例えば子供を連れて出勤せざるをえない職員がいたエピソードでは全員でカバーし温かく受け入れている。休憩時間の取得や定時での帰宅も可能となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も日々の業務に入ったり、職員とのコミュニケーションを図りながら職員の能力を引き出し、各自の向上心や職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内や保険者からの通知等により研修案内の情報を取り入れ、個人の希望や目標に応じた研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会への参加する事で、同業者との交流や勉強会の機会が持てている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、本人との面会や他事業所からの情報を通して、本人の意向や支援が必要な部分を十分理解し、コミュニケーションを多く取る事を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、家族との面会や他事業所からの情報を通して、ご家族の意向や困りごと等を十分理解するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にアセスメントを取り、課題抽出した後にプラン作成を行っている。電話相談がある際は、現在は満室である事を伝え、他の施設情報やサービス情報をお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人に関わる前に、今からその方に対してどういう介護を行うかをお伝えし、介護に携わっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際や、施設行事に参加された際、病院の付き添い等本人を交えた交流を取る事で関係構築を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下、通い慣れた美容室の利用や知人の方の面会も来て頂いている。また、仏壇を持参している方もおられる。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、担当のケアマネージャーはもちろん、利用していたサービス事業所等からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援として馴染みの美容院へ通う方や、電話の取次ぎなども心掛けている。家族の協力を得ながら盆正月の帰宅や、今年は年賀状を書いてもらうことも検討している。受診の帰りに付き添った家族と食事や買物をする利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの席の配置は、利用者同士の関係性を考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	担当ケアマネージャー等に退所後の状況を尋ねている。退所後は本人やご家族からの相談は今まで無いが、必要時、情報提供等を行う事としている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向についてはその都度確認し、サービス計画書に記載し把握している。帰宅願望がある方に対しては、家族の意向等も踏まえながら、外出支援等で対応している。また、私物管理については個人の管理能力(衛生面等)を考慮し、施設管理しているケースもある。	利用者と向き合う時にはまず目線を合わせることが基本であり、声のトーンや答えやすい問い掛け方にも配慮している。居室を訪ねベッドに座りながら話し相手をしている時など想いが聞けることもある。発語の少ない利用者も車の助手席で景色を眺めながら、いつもと違うひとときに話をしてくれることもある。聞き取ったことは口頭であったり、連絡ノートを使い共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、担当ケアマネージャーや家族から情報を得ている。入所前に自宅へ訪問し、生活環境や使用物品の配置等を把握する事で、入所後の環境整備に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状況については、定期的、状態変化時のアセスメントを行っている。その中で個々の残存機能に応じた活動を行っている。また、状態や意向に応じて臥床時間を設けている方もいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は本人、家族の意向を確認している。また、職員間で現状の課題や介護方法等を話し合い、介護計画を作成している。年に一回または必要時に担当者会議を行っている。	入居間もない時期は毎月の見直しとし、その後、3ヵ月毎、半年、一年と移行している。その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。家族アンケートでも「説明を受け一緒に話し合っている」との回答が多い。毎月のモニタリングはカンファレンスへと繋がりが活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は手書きの介護経過記録とパソコンでのケース入力・支援記録をそれぞれ行っている。計画書更新時はこれらの記録から情報を得る事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化と言えるかは分からないが、共用型の認知デイとして現在、一人のご利用者がおられる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、地域の方々が参加する、フラダンスのボランティア慰問がある。派出所の警察官が毎月、巡回に来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所に伴い、事業所の連携先の医療機関へ変更された方もおられれば、以前からのかかりつけ医療機関を希望された方は、継続して受診されている。	入居前からの馴染みの医師の元へ通う方や、入居後に協力医への変更を希望した方もいる。その際は往診があること等、十分な説明を受け納得後の変更である。受診への同行者は様々だが、職員のみ場合は当日中の結果報告とし、メール等のツールも増えている中で肉声での報告を大切にしている。また家族のみが付き添う場合は日々のバイタル表を持参してもらい医師に様子が伝わるよう配慮している。家族アンケートでも「健康面や医療面、安全面について心配はない」との回答が寄せられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より職員個々は、気になった事柄や小さな変化も情報共有を行い、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はそれぞれ情報提供を行っている。ソーシャルワーカーや退院支援看護師と、ホームの看護師がその都度連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のホームとしての指針は、入所時に本人と家族に説明し、了承を得ている。看取りに関しては現在までは未実施の為、医療機関と連携して行う事になるが、どこまでの対応が出来るか課題もある。	入居契約時に指針の説明を行っている。これまでに看取りの経験はないが、今後、希望があればそれに応えたいとの思いはある。開設してまだ2年目、事業所の体制や力量を計り、職員のフォローとして勉強会等も模索しているのが現状である。容態の変化に伴い、揺れ動く家族の気持ちも踏まえながら何度でも話し合いを重ね、安心して納得した最期を迎えてもらえるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時にAEDの操作訓練は受けたが、その後に入社した職員に関しては指導は受けていない。緊急時は看護師へ報告し、提携医療機関へ連絡し指示をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難誘導訓練を行っている。また、通報機器の業者も訓練に立ち会ってもらい、指導を受けている。また、施設の向かいの民家に災害時は応援連絡をお願いしており、地域住民の協力をお願いしている。	避難訓練として年2回、昼間帯に実施している。消防設備業者の立会いで利用者も一緒に避難を体験している。職員は消火器の使い方を承知しており、中庭デッキからの避難用として階段スロープも手配している。今後の課題として、自然災害への想定や一斉連絡網の中に近隣住民の登録をお願いする件、また周辺に住む方々への訓練参加のお願い、非常食や水、寒さを凌げる物の備蓄などを挙げ実現できるよう努めている。代表者宅が隣接していることも緊急時には心強い。訓練での反省点や指摘には速やかに取り組み、改善され職員全員に周知している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に敬語を使い、入所者個人個人の性格等を考慮した声掛けを行っている。また、プライバシーに関しては、トイレ誘導等の際は他者には聞こえない程度のトーンで声掛けを行っている。	入居して間もない頃は同性によるケアを心掛けている。接遇研修もあり、言葉使いには特に注意を払っている。敬語であっても他人行儀に聞こえないのは時折交じる方言の温かさかもしれない。トイレや入浴介助は最も配慮を要す場面だが、ドアを閉める、見え難い立ち位置でのケア等々、細かい配慮が自然に行われている。また個人情報の取扱いに対する職員の意識も高く、声の大きさなど業務上のやり取りであっても配慮が窺える。居室の名札(デジタル表示)やホーム便りへの写真掲載、ネット上のホームページについても同様で本人や家族の承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを表出できる方に関しては、出来る範囲で思いの実現を図っている。(食事の際に食べる佃煮を買いに、スーパーまで同行している等)表出が上手くできない方に関しては、職員がいくつか提示した中で決定してもらう様な声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れとしては、職員の業務の都合上になっている事が多い。(お風呂や食事の時間等)体調や病状に応じては臥床時間を設けているが、入所者一人一人の希望に沿った支援が出来ているかという点では不十分な所はある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者はご自身が使い慣れた衣類を持参されており、身だしなみに関しては職員が衣類を整える等の介助を行っている。爪切りや耳掃除、散髪に関しては適宜、職員が介助の下行っている。化粧をしたりドレスアップしたりというおしゃれに関しては支援が十分に出来ていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は材料を宅配してもらい、職員が調理している。調理は能力的に難しい方が多く、食事後に下膳を手伝って下さる方が数名おられる。食事中は職員が見守りや一部介助を行いながら、時々会話をしている。	業者による食材配達を利用しており栄養価も計られている。献立は業者によるところが大きい。今後は調理専門スタッフの配置が可能となり利用者のリクエストにも応えやすくなっていく。このスタッフ配置は職員がケアに集中できるメリットもある。利用者の好き嫌いやアレルギー有無の把握も出来ており、苦手な食材や献立には代替えが用意される。食が細い方には状況に応じて高カロリー食が用意され、なかなか箸が進まない方へは声掛けや介助で支援している。事業所オリジナルの食器を使い、殆どの利用者は自分で口へ運んでいる。誕生日にはケーキも用意され当日に祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の宅配サービスを利用し、バランスの取れた食事の提供を行っている。毎食時や入浴、運動後の水分補給は行ってもらっており、一日1000～1500ml摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入所者の方へ歯磨きの声掛け、誘導を行っている。希望される方は歯科往診を受けてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現在、2名の方はオムツの使用は無い。排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し、時間ごとに声掛け誘導を行っている。	排泄に関して自立した方もいるが任せたままではなく、さりげなく見守っている。日中はトイレでの排泄が主であり、便座回りには手摺りはもとより可動式ひじ掛けや背もたれの設置もある。これらは自立への補助具として有効である。また、パターンの把握による適切な誘導で汚染を未然に防ぐ効果は表れている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認を毎日行い、便秘傾向にある方は下剤を使用したり、水分を多くとってもらう様声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者それぞれ、週に3回の入浴を実施している。毎回、午前中入浴時間を設定しており、個々の希望に応じた入浴支援が出来るとは言えない。入浴拒否がある方には拒否された翌日に入浴して頂く等、柔軟性は持っているとと思う。	入浴は週3回を目途に支援しているが、風呂の準備は出来ているため希望があれば毎日でも可能である。シャワーや清拭等も交えながら清潔保持に努めている。入浴時間帯が午前中であることは職員の配置等も考慮した結果だが、個々の希望に沿えていないのではと反省もあり課題としている。入浴を嫌がられる方へは日にちやタイミングをずらす工夫もある。冬場は脱衣場の暖気を浴室へ送りヒートショック対策もしている。また、一角にトイレが設置されていることは使い勝手も良い。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せる見守りのケアである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労感を訴えられる方には午睡時間を設けたり、夜間不眠が見られる方にはお茶を飲んでもらったり、会話する事で安眠に繋がっている方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が、入所者の処方薬の内容や副作用まで理解しているとは言えない。処方薬の変更があった際は、看護師によりスタッフに説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設の中に閉じこもるのではなく、毎日の散歩やドライブへの参加、嗜好品の購入のための買い物等で楽しみごとの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの花見や、ホーム外で食事を楽しむという目的で、デパート内のフードコートでそれぞれが食べたいものを選んでもらう食事レクという形で行った。	本人の口から外出の希望が聞かれることもある。話題を振れば興味を示す利用者もある。若い職員の機動力で天候や体調をみて当日に決め、出掛けることもある。法人内の他事業所が催す行事に出掛けたり、嗜好品の買物なども楽しみとなっている。また日常的に周辺への散歩もあり、日差しを浴びるメリットや五感の刺激にも繋がっている。車椅子対応車両もあり、中には外出に消極的な方もいるが、全く外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望もあり、ほとんどの入所者は所持されていない。小銭を持参されている方はおられるが、本人が使われる事は無い。買い物支援を行っている方も、ホームが立替え、利用料と一緒に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望される方はおられるが、ご家庭の事情もあり直接電話された事はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内に光が差し込む作りになっている。居室のドアを開けるとホールに繋がっている。	中庭のウッドデッキを囲むように建物はコの字型である。そのため居室のドアを開けるとリビングであり誰かの姿が見える安心感もある。利用者が日中を過ごすリビングは中庭からの自然光で明るい。強い日差しはヨシズで避け、冬場は絶好の日向ぼっこスペースとなる。奥まった住宅地に建ち騒音は全くない。毎日の職員の掃除に加え、法人の営繕部門スタッフが月に数回、細やかな掃除も行っている。嫌な臭気もなく、手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のソファで一人でゆっくり過したり、入所者同士会話したりして過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者の中には仏壇を持参されており、毎日御仏飯を備えられる方もおられる。	居室には火気等の危険物以外に持ち込む品物の制限はない。またクローゼットがあることで収納ができ、室内の整理整頓にも役立っている。家具等の配置は職員や家族が話を聞きながら行い、居心地よく過ごせるよう支援している。壁に絵や写真が飾れるようピクチャーレールの取り付けも検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	中庭の植木の水やりや、随所に手すりを設置する事で歩行時の不安の解消に繋がっている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない